



町に関する話題など広報係が取材したできごとをご紹介します。

## 2000 年前の命の記憶

平田地区から弥生時代の人骨が出土

平田教育集会所の擁壁復旧工事中に発見されていた弥生時代中期(2,000 年前)の人骨が、2月26日、土井ヶ浜人類学ミュージアムの協力のもと、慎重に取り上げられました。

これは、大型甕棺<sup>かめ</sup>の中に埋葬されていたもので、人骨の残存状況も良く、このような形で出土するのは町内で初めて。取り上げられた人骨は、九州大学大学院で、これから詳細な分析が行われます。また同時に出土した土器は、企画展等で活用される予定です。



甕棺の中をスケッチする土井ヶ浜人類学ミュージアムの職員



伊勢神宮で伐採したヒノキが到着

## 木山神宮の復旧に伊勢神宮のヒノキ

ヒノキ寄贈奉告祭<sup>ほうこく</sup>

熊本地震で被災し復旧工事を進めている木山神宮に伊勢神宮(三重県)からヒノキが寄贈され、坂田製材所(御船町)で2月29日、寄贈奉告祭が行われました。

木山神宮は、元の神殿に使用されていた江戸時代の木材を利用して再建する計画でしたが、傷みがひどいものもあり、全ては使用できませんでした。そのため、同じ祭神を祭る伊勢神宮の厚意により、「神宮林」で育った樹齢85年のヒノキ30本が贈られました。このヒノキは、同製材所で乾燥・加工され、神殿の部材に使用されます。

## 慎重に審議した結果を町へ

益城町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会が答申

益城町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会は、3回にわたり行った審議会の内容を取りまとめ、3月2日、町に答申しました。

西村町長に答申書を手渡した鈴木桂樹<sup>すずき けいじゅ</sup>会長は、①官民連携体制による分野間の効果的な施策連携を推進するとともに、的確な施策評価などを実施して、適切かつ柔軟な進行管理を図ること、②本戦略の趣旨や内容をわかりやすい形で積極的に住民などに周知し、広く理解と協力を求めることを要望しました。



西村町長に答申書を手渡す鈴木会長



益城33カ所巡りの第13番札所に指定されている灰塚観音堂は、熊本地震で被災し全壊しました。町からの補助金と地区の人たちからの寄付により建て替えを行い、3月15日、落成式が行われました。下寺中灰塚<sup>たのうすもとゆき</sup>の田上基行囑託員は、「いろいろな人たちの協力により観音堂を復旧することができて良かった」と、ほっとした表情を浮かべていました。

Pickup Plus  
今月のプラス+